

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和2年度より高い成果があった B:令和2年度並みの成果であった
 C:令和2年度より低い成果であった D:令和3年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和3年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和3年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和3年度の担当課評価	カ)令和4年度の実施方針
基本目標(1)学習情報の収集・発信										
(1)-1	○生涯学習情報の集約	サークル・団体紹介	市民のサークル・団体情報を集め(掲載を希望する団体)、冊子やホームページで情報提供する。	生涯学習課	他課で作成しているサークル紹介冊子と情報を共有してほしい(手続きを簡略化してほしい)との声があったことから、地域包括支援センターが発行する冊子との申請書共通化を行った。	地域包括支援センターと情報共有できた結果、サークル・団体紹介の掲載団体数を増やすことができた。生涯学習情報の集約につながっている。	営利性のある団体から、本冊子に掲載したいとの声がある。	地域包括支援センターとの打ち合わせの中で、冊子内容や手続き面に関する課題を洗い出すことができた。	B:令和2年度並みの成果であった	冊子(エクセル)とホームページのデータ管理を一元化できるよう検討する。
(1)-2	○生涯学習情報の集約 ○多様な手段での情報発信	生涯学習情報の集約・発信事業	市の生涯学習に関する情報を集約し、多様な手段で情報を発信する。	生涯学習課	社会教育委員の会からの意見書「生涯学習情報の集約・発信事業に関する意見」を受け、市HPのトップページのバナーに新たに財団3館を追加した。	バナーを追加したことで各HPへアクセスしやすくなったため、生涯学習情報の集約に資することができた。	特になし。	市HPのトップページに公民館、図書館、財団3館のバナーを並べることで、より情報発信の成果が高まった。また、引き続き生涯学習ガイドを配布した。	B:令和2年度並みの成果であった	意見書を踏まえ、引き続き多様な手段での情報発信手段を検討していく。
(1)-3	○多様な手段での情報発信	公民館だより・図書室月報発行事業	公民館事業および公民館図書室の情報を提供するため、毎月1回広報誌を発行している。今後も公民館事業の発信および周知を図る。	公民館	公民館だより及び図書室月報を月1回発行した。公民館講座の募集記事や講座参加者の声、講演要旨、公民館図書室の新书推荐や講座参考図書などの情報提供を行った。	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策でステイホームが推奨される中、毎月発行し続けたことで、広く情報を発信し、周知することができた。	毎月、公民館講座や施設利用の情報、講座参加者の声を読むことができて、学習に役立っているとの声があった。	新型コロナウイルス感染症予防対策として、利用上の注意点や会場定員の変更、オンライン講座の申込み方法や受講上の注意、発行後に変更事項が生じた際に変更内容を掲載するホームページのQRコードの掲載を行った。	B:令和2年度並みの成果であった	令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、公民館事業や公民館図書室についての情報提供を行っていききたい。
(1)-4	○多様な手段での情報発信	図書館広報事業	図書館事業の情報を市報や館報、ホームページを使って広く周知し、利用を促進する。	図書館	図書館広報誌「いんふぉめーしょん」を12回発行、くにたちの教育の中の記事の掲載を4回、図書館HP、市HPによる広報を随時行った。	図書館で行っている事業の広報を通じて、本重点施策の推進に貢献できた。	特になし。	適切に行えた。	B:令和2年度並みの成果であった	今までどおり実施していきたい。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和2年度より高い成果があった B:令和2年度並みの成果であった
 C:令和2年度より低い成果であった D:令和3年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和3年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和3年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和3年度の担当課評価	カ)令和4年度の実施方針
基本目標(2)学習機会の充実										
(2)-1	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	いきいき百歳体操の普及推進	高齢者の介護予防として筋力向上とコミュニティづくりを推進するため、おもしろを使った筋力運動である「いきいき百歳体操」の普及と効果測定を庁内保健師連携により図るとともに、自主的に行うグループを増やしていく。	健康増進課	各グループ参加者の運動不足による筋力低下を防ぐため、既存の100歳体操17グループの代表者に、指導者研修を実施した。2回実施参加延人数22人。1グループが活動を終了したが、新たに2グループが立ち上がり、合計18グループとなった。	コロナ禍において健康二次被害の問題を意識し、市民が健康づくりに取り組めるよう支援した。	各グループでは、100歳体操と一緒に新しい体操を取り入れるなどの意欲が感じられたグループが多かった。「体操に来ることで、メンバーから元気をもらっている」との声を聞いた。地域でのつながりが健康増進に影響している。	コロナ禍においても、筋力トレーニングを行っている方々は、体力を維持されている。今後も引き続き普及推進していく。	B:令和2年度並みの成果であった	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施し、さらなる向上を図る。
(2)-2	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	国立市青少年国内交流事業	国立市在住の小学6年生を国内に派遣し、歴史・風土・文化に触れ、平和・人権などについての相互理解を深める機会を提供する。	児童青少年課	コロナ禍を踏まえ、現地研修は中止、都内施設見学による代替企画を実施	完全中止とした前年度と比較して、事業目的を果たした	現地研修へ行けなかったことについて落胆した児童がほとんどであったが、代替企画を経て、皆充実した様子を見せていた	コロナの状況に伴い急遽中止とする流れや、代替企画についての設計など、不測の事態対応に時間と負担が生じたと考えている	A:令和2年度より高い成果があった	コロナの状況を踏まえながら、安全な事業実施について展開する
(2)-3	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	グローバルカフェ事業	カフェのような気軽な雰囲気の中で国立市内在住の中高生(企画により小学校高学年児童を含む)と一橋大学の留学生とが交流する機会をつくり、多文化共生の視点を持ち、国際人の一人として行動できる青少年を育成する。	児童青少年課	コロナ禍を踏まえ、定員数を縮小して実施(全6回のうち、1回はコロナの影響で中止)	完全中止とした前年度と比較して、事業目的を果たした	楽しみにしていた中高生のために、スタッフと協議し、定員を半数、飲料をペットボトルにするなどして事業を再開。結果、多くの参加希望者が募り、参加者は充実した様子を見せていた。	コロナ禍で定員数を間引いての実施ではあったが、参加は一定数以上あり、交流機会のニーズに適切に対応したと考える	A:令和2年度より高い成果があった	引き続き事業を安全に実施する
(2)-4	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	CMスタッフ事業	国立市内在住又は在学の中高生を対象に、中高生自身の意見の発信や中高生の目線を取り入れた市の情報発信を行う機会を提供することで、中高生の市に対する理解を高めるとともに、社会への参画の意欲を高める。	児童青少年課	2本の動画の撮影、編集	子どもたちの主体的な参画の実現の機会となった	コロナ禍にあって、積極的な取材活動の調整が課題となった一方、自ら編集を手掛けた動画が市の広報映像として公開されることにやりがいを感じている子どもだった。	年々参加人数が減ってきている。コロナ禍で学生生活へのハードルも懸念される中、今後活動を維持していくには工夫等を検討する必要があると考えている	C:令和2年度より低い成果だった	事業参加者数の向上を図るとともに、参画がしやすい新しい情報発信のテーマ設定等について検討、実践を図る
(2)-5	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	児童館小学生体験交流事業	小学生を対象に、遠足等の野外活動、工作・料理などの体験活動、焼き芋、凧作り等の季節行事、合唱・劇団などのクラブ活動等の機会を提供することで、小学生の社会性や自律性を育む。	児童青少年課	感染リスクの高い、大人数が集まる事業、遠足、宿泊、食事を伴う事業等は中止したが、感染対策を講じてできる事業は行った	前年度と比較し、事業回数も増え、利用者も回復傾向になった	子どもの体験事業が少なくなった中で、実施したことは喜ばれている	感染状況を見ながらの実施判断となったが、できる限りの事業を実施し、利用者を取り戻すことが出来つつある	A:令和2年度より高い成果があった	感染対策を講じ、実施可能な事業を展開する
(2)-6	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	青少年キャンプ事業	国立市内在住の小学5年生～中学3年生を対象に、桧原村湯久保の古民家に宿泊し、豊かな自然の中での野外活動や学校の違う人と寝食をともにするキャンプを実施することで、自活力、コミュニケーション力を育む。	児童青少年課	コロナ禍を踏まえ、中止	未実施のためなし			B:令和2年度並みの成果であった	今後の実施内容、方法について検討

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和2年度より高い成果があった B:令和2年度並みの成果であった
 C:令和2年度より低い成果であった D:令和3年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和3年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和3年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和3年度の担当課評価	カ)令和4年度の実施方針
(2)-7	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	プレーパーク事業	国立市内在住の18歳までの児童が、ツリークライミングやロープ綱渡り、野外料理、ハイキングなどを行うことができる環境を整備することで、世代間交流の居場所を提供すると共に、児童の本来の力を引き出す機会を提供する。	児童青少年課	感染対策を取りながら、例年と同程度の回数の実施ができた	事業の目的を果たした	体験機会が減少する中、喜ばれている	自主性を伸ばさず体験機会の提供に寄与している	A:令和2年度より高い成果があった	引き続き感染対策を講じ展開する
(2)-8	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	高次脳機能障害者支援促進事業	高次脳機能しょうがいを持つ方の集いの場として、国立市障害者センターにサロンを開設し、楽しみながら脳のリハビリにもなる様々なプログラム(体操、調理、絵手紙、俳句、音楽、書道等)を実施している。	しょうがいしゃ支援課	毎週水曜日(祝日を除く)の13時30分～15時30分、全47回(令和3年4月1日～令和4年3月31日)実施。	新型コロナウイルス感染症の影響下においても、ZOOMを用いたりリモートサロンを実施することにより、ほぼサロンを中止することなく継続し、高次脳機能しょうがいを持つ方を中心に集いの場を提供することができた。	安心して楽しく参加できる場として、当事者・家族や関係団体より評価いただき、今後の事業継続を期待されている。また、他自治体の視察やリハビリテーションを学ぶ学生の見学も多く受け入れている。また、新型コロナウイルス感染症の影響下においても、ZOOMを用いたりリモートサロンを実施し、サロンを継続したことも、当事者より評価いただいた。	新型コロナウイルス感染症の影響下においても、ZOOMを用いたりリモートサロンを実施、高次脳だよりを定期的に発行するなど、当事者とのつながりが切れないように工夫をした。また、会場参加を希望する方が多く、3密に留意するなど感染症対策を行った上での実施継続となった。	B:令和2年度並みの成果であった	基本的には従来通りの会場参加形式でのサロンを実施する。新型コロナウイルス感染症の状況によっては、ZOOMを用いたりリモートサロンのみの実施も検討する。
(2)-9	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	家庭教育講座	子育てを学ぶ機会の減少など家庭教育を支える環境の変化により、子どもの保護者への負担が大きくなっている中で、家庭が抱えるさまざまな課題解決の一助とすることを目的に家庭教育講座を実施する。	生涯学習課	令和4年3月27日に家庭教育支援講座「発達しょうがいを理解する」を開催し、43名が参加した。(会場とオンライン同時開催)	発達しょうがいに興味がある方へアプローチする講座として、学習機会の充実に資することができた。	地域や学校、家庭の連携の重要性がわかった、地域で活動する際に参考にしたい等の声があった。	多くの方に参加いただき、発達しょうがいというテーマへの市民の関心がかんり高いことが分かった。講座が終わった後、参加者同士での交流も生まれていった様子で、講座における学び以外にも、参加者にとっての価値を生み出したのではないかと感じている。	B:令和2年度並みの成果であった	引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら実施していく。
(2)-10	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	高齢者向け各種運動事業	高齢者向け社会体育事業として、健康体操教室、街を山を歩くを実施している。	生涯学習課	コロナにより事業中止(開催なし)	公共交通機関を利用した移動や高齢者基礎疾患等も配慮し事業を中止したため、計画の推進に貢献できなかった。	特になし。	今後の感染状況にも左右されるが、公共交通機関を使用しない市内でのウォーキング事業や身体を動かす期間の提供等を検討していく必要がある。	D:令和3年度未実施であった	コロナ感染状況により開催を判断。安心してスポーツを楽しむことができる機会の提供に努める。

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択
 A:令和2年度より高い成果があった B:令和2年度並みの成果であった
 C:令和2年度より低い成果であった D:令和3年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和3年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和3年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和3年度の担当課評価	カ)令和4年度の実施方針
(2)-11	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	女性・男性・親子・子ども・高齢者向けの事業	世代別および個別の学習機会を提供するため、世代別や性別に応じた様々な事業を展開する。	公民館	【実績】 女性のライフデザイン講座(年2回)、親子講座(年6回)、シルバー学習室(通年)を実施した。	同じような課題を持つ人達と一緒に学ぶことで、目的意識を共有しながら学習していく機会を提供することができた。	令和2年度に引き続きコロナ対策として、人数制限や感染予防を行いながらの実施だったが、「毎週公民館へ通って学習するのが楽しい」「新しい仲間ができて嬉しい」という声があった。	令和2年度に引き続き、ソーシャルディスタンスを確保できる座席の配置と消毒、参加者への呼びかけ等の感染対策を徹底し実施した。料理講座は持ち帰りができるメニューとし、昨年度は実施できなかったシルバー学習室のバスハイクも感染対策を徹底しながら実施できて喜ばれた。	B:令和2年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(2)-12	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	しょうがいしゃ青年教室、しょうがいしゃPC事業	しょうがいのある者とな者が共に活動し、お互い学び合うことを目的に事業を展開する。今後も共生の地域社会を育む学習機会を提供する。	公民館	しょうがいしゃ青年教室(99回)、年間交流行事(5回)、青年講座(2回)等を実施。	しょうがいしゃも年間交流行事の実行委員を務めるなど活動のなかで積極的に役割を担い、しょうがいの有無を超えてともに学び合い楽しむあう機会を提供することができた。	しょうがい当事者からは活躍の場が持てて嬉しい、保護者からはコロナ禍で地域と関係性を育むのが困難な状況のなか、青年教室の重要性を改めて実感したとの声をいただいた。	令和2年度に比べ対面で開催する機会を多く持つことができた。距離を保つ、調理は持ち帰るなど感染対策に留意しつつ、多様な学びの機会を提供した。	B:令和2年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(2)-13	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	自立に課題を抱える若者支援事業	若者の自立や社会参画支援を目的として事業を展開する。今後も若者視線で関係機関と連携した共生の地域社会づくりを推進する。	公民館	【実績】 中高生のための学習支援事業(36回)、NHK学園共催講座(12回)等を実施。NHK学園で若者と関わる新たな実践が始まった。	様々な背景を抱える中高生・若者に対して学習の個別支援や、彼らを支える人材を育む機会を提供することができた。	学習支援に参加する中高生からは、「学習習慣が身につくようになった」「大学生が親身になってくれて嬉しい」などの声があった。	広報を重点的に行ったが、コロナの影響があり、生徒の参加人数が伸び悩んだ。	B:令和2年度並みの成果であった	引き続き生徒への広報を行い、参加人数の増加を目指していく。
(2)-14	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	生活のための日本語講座、日本語教育入門、にほんごサロン	国籍・文化・言語などの違いを超えて暮らしやすい生活を送ることを目的に事業を展開する。今後も共生の地域社会を育む学習機会を提供する。	公民館	【実績】 生活のための日本語講座(251回)、日本語教育入門(8回)、にほんごサロン(12回)	地域に暮らす外国人への生活のための日本語学習の機会、地域で日本語支援をしたい人のための学習の機会を提供することができた。	日本語講座、にほんごサロンでは、日本語や日本文化について勉強でき、生活が楽しくなったという声、日本語教育入門では早く日本語ボランティアに参加したいという気持ちになった、との声があった。	新型コロナウイルス感染症が流行する前と比べ、学習者の数は少ないが、昨年度と比べると少しずつ新規の申し込みが増えている。	B:令和2年度並みの成果であった	引き続き学習の機会を提供し、学習を通じて市民との交流もはかる。
(2)-15	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	児童サービス事業	子どもたちの学習や生活に役立つだけでなく、子どもの豊かな心の育成を目指し、推薦図書リストの作成、調べものの支援及び「えほんのじかん」「おはなしのじかん」「わらべうたであそぼう」などを実施している。また、中高生向けには、YAコーナーの展示や講演会の企画を実施している。対象は、子どもだけでなく、子育てにかかわる親や家族、先生、保育士、ボランティアも含む。	図書館	15歳未満児童一人当たりの児童書平均貸出冊数が20.2冊だった。(15歳未満児童数8,566人、児童書貸出冊数173,270冊)	児童が書籍を読むことで、家庭教育等の支援や、様々な考えに触れ、知識を吸収することを通じて、本重点施策の推進に貢献できた。	特になし。	令和2年度における15歳未満児童一人当たりの児童書平均貸出冊数の15.7冊(15歳未満児童数8,633人、児童書貸出冊数135,373冊)と比較すると、令和3年度は成果が上がった。これは、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止から4~5月にかけて休館していた一方で、令和3年度は休館がなかったことが一因である。	A:令和2年度より高い成果があった	引き続き実績を積み重ねていきたい。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A: 令和2年度より高い成果があった B: 令和2年度並みの成果であった
 C: 令和2年度より低い成果であった D: 令和3年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和3年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和3年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和3年度の担当課評価	カ)令和4年度の実施方針
(2)-16	○ライフステージに応じた学習機会の充実	しょうがいしゃサービス事業	図書館の利用や情報入手にハンディのある利用者へ、資料・情報の提供をし、生涯にわたる学習を担保するための事業。視覚障害者向け資料の選定・作成依頼、大活字本等の購入、音訳・点訳資料の貸出、宅配サービス、相互貸借(他館との協力による貸出)等を行う。	図書館	しょうがいしゃサービス利用登録者数一人当たりの音訳資料、点訳資料平均貸出冊数が133.0冊だった。(障害者サービス利用登録者数15人、音訳、点訳資料貸出冊数1,994冊)	しょうがいしゃが書籍を読むことで、教育、文化スポーツなどの様々な機会に親しむことができるため、本重点施策の推進に貢献できた。	しょうがい等があっても図書の利用ができることを喜ぶ声や継続を望む声があがっている。	令和2年度におけるしょうがいしゃサービス利用登録者数一人当たりの音訳資料、点訳資料平均貸出冊数の137.8冊(しょうがいしゃサービス利用登録者数12人、音訳、点訳資料貸出冊数1,653冊)と比較すると、令和3年度は平均貸出冊数の成果が下がった。 一方で、しょうがいしゃサービス利用登録者数が令和2年度と比較して令和3年度は3人増加した。総合的には令和2年度並みの成果だったと言える。	B: 令和2年度並みの成果であった	今までどおり実施していきたい。
(2)-17	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	租税教室	児童・生徒が、租税の意義や役割を正しく認識し、将来、健全な納税者となることを願い、適正な申告と納税の重要性について理解させることを目的とし、教育関係者、国税・地方税当局、税理士会、法人会等との連携・協調の下で、「租税教室」を実施する。	収納課	新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止。	未実施のため、なし	未実施のため、なし	未実施のため、なし	D: 令和3年度未実施であった	未定
(2)-18	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	各種健康相談、健康に関する講話・講演会、啓発など	主に生活習慣病予防を目的に、健康に関する意識啓発、生活習慣や検査データの改善を図るための各種事業を、各種団体とも連携しながら実施する。	健康増進課	保健師及び栄養士等が、関係機関と連携し、下記のとおり、実施した。 ○食育講座(地場野菜と栄養) 小学生対象 参加延べ人数59名 ○心の健康づくり 小学生対象 「SOSの出し方に関する授業」 参加者416名(14クラス) ○薬物乱用防止推進活動 中学生対象 ポスター応募数15点 標語応募数491点 ○GO!5!健康大作戦 18～64歳でBMI25以上の方 参加者69名 ○血管長持ち大作戦 40～74歳へのアプローチ 参加者6名 ○健康ティータイム 1回開催	コロナ禍の影響により、来所型の健康相談等は参加者が少なかったが、学校での健康教育の回数は増えている。 市民からの依頼があり、リモートで健康予防・新型コロナ感染症予防について事業を行った。	同左	健康診査の受診率が下がっている中、健康二次被害の対策の工夫が必要である。	B: 令和2年度並みの成果であった	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施し、向上を図る。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和2年度より高い成果があった B:令和2年度並みの成果であった
 C:令和2年度より低い成果であった D:令和3年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和3年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和3年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和3年度の担当課評価	カ)令和4年度の実施方針
(2)-19	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	健康づくり推進員活動支援事業	健康寿命の延伸と健康なまちづくりを目標に、意欲ある市民を健康づくり推進員として登録し、保健師等とともに市民の健康づくりを推進する。推進員には必要な病態、運動、栄養等の知識の習得と健康づくりの実践に努めていただき、地域住民等の自発的な健康づくり活動の展開につなげていく。また、オリジナル体操の普及を推進するため、健康づくり推進員が毎週定期的に公園で開催するほか、地域の団体への出張講習や高齢者事業等で普及を図る。	健康増進課	・養成講座 1回 3名 ・定例会 2回 55人	毎年推進員養成講座を開催する。	新型コロナウイルス感染症流行中、主な活動は、毎週火曜日のオリジナル体操であり、楽しく感染予防に留意しながら実施している。	養成講座を実施、登録に至った市民がみられた	B:令和2年度並みの成果であった	さくらまつり、市民祭り、講演会等で一緒に活動を行っていく。また、その健康づくり計画に沿って、ますます、市民を取り込んで、継続していく事業
(2)-20	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	国立市青少年海外短期派遣事業	国立市内在住又は在学の中高生を海外へ派遣し、多文化・多様な人種の共生する社会を学習する機会を提供することで、他者理解の意識を醸成すると共に、将来のグローバル社会の担い手としての意識を育成し、世界を舞台に活躍する人材の輩出に寄与する。	児童青少年課	コロナ禍を踏まえ、中止	未実施のためなし			B:令和2年度並みの成果であった	今後の実施内容、方法について検討
(2)-21	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	ローカルセッション事業	国立市内在住又は在学の中高生を対象に、市内の地域資源等に触れながら、自分たちの活動の相互共有を図ることのできる機会を提供することで、中高生の他者理解や国立市政に対する考えを深め、また社会へ参画する意欲を高める。	児童青少年課	令和2年度に発足した中高生による実行委員会を主体に、児童館の企画を検討し、実施	特に中高生における参画を実現する機会となった	実行委員の構成員となる中高生より、テストやクラブ等の繁忙が度々あり参加できる機会に限られるとの声があった	実行委員会として企画を実現できたことは一歩であるが、児童館の中高生の認知、恒常的な中高生の参画の実現には及ばない状況にある	A:令和2年度より高い成果があった	実行委員の追加募集、実行委員による企画立案の継続
(2)-22	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	子ども観劇会事業	文化・芸術にふれる環境を整え、国立市内在住の小中学生の豊かな成長と地域文化への愛着を促すため、児童青少年課と市民グループを構成員とした「わくわく子どもフェスタ実行委員会」による事業の一環として子ども観劇会を実施する。	児童青少年課	わくわく子どもフェスタとしては、人数制限を行いながら、ワークコーナー、ホール公演(観劇会)を実施することができた	前年度と比較し、多くの参加者に来てもらうことができた	体験機会が減少しているため、喜ばれている	ホール公演のみとなった前年度に比べ、実施の規模は膨らんだため、参加人数は増えた	A:令和2年度より高い成果があった	感染対策を取りながら実施できる内容を検討している

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択
 A:令和2年度より高い成果があった B:令和2年度並みの成果であった
 C:令和2年度より低い成果であった D:令和3年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和3年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和3年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和3年度の担当課評価	カ)令和4年度の実施方針
(2)-23	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	稲作体験学習会	市内小学校5年生児童を対象として実施。田植え・稲刈りの他、各校の希望に応じて、稲作体験学習会拡充プランとして社会科の授業へのゲストスピーカーの派遣、調理実習への委員訪問等を行う。	南部地域まちづくり課	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に留意の上、市内公立小学校8校の5年生児童を対象に実施した。収穫した米(310キログラム)は各児童に配布した。 田植え:6月22日(火)実施 参加者:8校・496名 稲刈り:10月14日(木)実施 参加者:8校・496名 授業訪問:8校(ゲストスピーカー) 授業訪問(児童発表):11月26日(金) 実施校:1校・56名	教育委員会、農業委員会、JAとの連携・協働が順調に行われ小学生へ貴重な体験を提供できた。	地産産米や地域農業への関心が高まるとともに、地元農業者との交流をはじめ、新鮮な体験を提供できた。	コロナ禍における密対策に留意のうえ、滞りなく実施できたと考え。田植え・稲刈りでは、児童が滞留しない様な運用を徹底し、また各校の訪問授業では、生徒同士の間隔を広く取り、大型スクリーンを使用した授業を行う等、可能な限りの対応を心がけた。	B:令和2年度並みの成果であった	各種団体と協議・連携し新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、より効果的に事業を実施できる様努める。
(2)-24	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	子ども向け各種運動事業	水泳・サッカーの教室を実施しているほか、東京女子体育大学・東京都多摩障害者スポーツセンターの協力により、様々なスポーツを体験できる「スポーツ子どもの日」を実施する。	生涯学習課	スポーツ子どもの日 実施日 R4.2.20 参加人数 62人 会場 東京女子体育大学 種目 トランポリン、フラインドサッカー	例年と開催形式を変更(2部制)するなど、感染対策を取りながら実施することができ、計画の推進に貢献できた。	市内イベントが中止となるケースが多い中、子どもが身体を動かす機会を提供したことについては好意的な意見あり。	参加定数の減や2部制を取り入れる等、感染対策を取りながら実施。安心してスポーツを楽しむことができる機会の提供を今後も継続していく必要あり。	A:令和2年度より高い成果があった	コロナ感染状況により開催を判断。安心してスポーツを楽しむことができる機会の提供に努める。
(2)-25	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	ファミリーを対象とした各種運動事業	東京女子体育大学の協力により、ファミリーソフトボール教室を実施する。	生涯学習課	ファミリーソフトボール教室 実施日 R3.11.14 参加人数 34人 会場 谷保第三公園	例年、大学施設を使用していたが、コロナ禍で大学側の入校制限がある中で中止することも考えられたが、代替場所での開催することを大学側と調整し、例年並みに開催することができた。	市内イベントが中止となるケースが多い中、子どもが身体を動かす機会を提供したことについては好意的な意見あり。	オリパラ開催年ということで、講師佐藤麻理恵氏には金メダルや聖火トーチの持参してもらい、オリパラ機運醸成とも関連した事業となり、今後も継続していく事業となる。	B:令和2年度並みの成果であった	コロナ感染状況により開催を判断。安心してスポーツを楽しむことができる機会の提供に努める。
(2)-26	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	しょうがいしゃを対象とした各種運動事業	身近な地域でのしょうがいのある方々のスポーツ活動の推進のため、東京都多摩障害者スポーツセンターと卓球連盟の協力により、卓球教室を実施する。	生涯学習課	卓球教室はコロナ禍における開催に関して関係者と協議し、事業中止(開催なし)。一方、しょうがいの有無に関わらずだれでも参加できるポッチャ体験教室を開催(一部中止)したほか、ポッチャくにたちカップを開催した。 ・ポッチャくにたちカップ参加人数 61名 ・ポッチャ体験教室 102名	一部事業は中止となったものの、生涯学習課が主催するポッチャ関連事業を開催することができ、計画の推進に貢献できた。	東京都多摩障害者スポーツセンターの利用制限がかかっている中で、しょうがいしゃが思うように身体を動かすことができずにいたため、感染対策をとりつつ、できる限り開催して欲しいとの意見があった。	外出を控える人が多い中、健康二次被害の懸念がある。その中で自宅や公園等で身体を動かす動画等の配信などの情報発信を検討していく必要がある。	A:令和2年度より高い成果があった	コロナ感染状況により開催を判断。安心してスポーツを楽しむことができる機会の提供に努める。
(2)-27	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	人権週間イベント	あらゆる差別や偏見の存在しない「人間を大切に」まちづくりを推進するため、人権週間に合わせてイベント(講演会、映画上映会、パネル展等)を行う。	市長室	「くにたち人権月間2021」(11月~1月の3カ月間にわたって開催。)①記念講演・セレモニー(R3.12.6、128名)、②じんけん映画会(R3.12.7、90名)、③オンステージ企画(R3.12.8、180名)、④くにたち人権サミット(R4.1.26、114名)など。	例年12月の人権週間には啓発イベントを実施しているが、令和3年度は期間を大幅に拡大し、市民や他課との協力で様々な人権テーマのイベントを開催した。	市民と市が協同で開催していることへの肯定的な意見や、様々な人権テーマに触れることができてよかったとの意見が多かった。	人権月間では、様々なイベントを開催し、多くの方に参加いただいた一方、それぞれの人権テーマに関する当事者や関係者が多く、一般層や若年層への広がりに課題がある。	A:令和2年度より高い成果があった	期間を12月の1カ月間として、様々な企画による人権月間を開催予定。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和2年度より高い成果があった B:令和2年度並みの成果であった
 C:令和2年度より低い成果であった D:令和3年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和3年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和3年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和3年度の担当課評価	カ)令和4年度の実施方針
(2)-28	〇様々なテーマや課題に対応した学習の支援	平和事業	国立市平和都市宣言の趣旨に沿って、市民の平和意識の啓発を目的としたイベント(講演会、映画上映会、パネル展等)をくにたち平和の日等に開催する。	市長室	<ul style="list-style-type: none"> くにたち平和推進週間パネル展「戦争と一橋生～一橋の戦没アスリートたち～」(R3.6.8～6.17) くにたち平和の日展(R3.6.21) 「ふつうの日になったのか原爆の日」展(R3.8.4～8.19) 戦争体験アーカイブ事業パネル展(R4.1.18～1.23) 	「ふつうの日になったのか 原爆の日」展では、「一行のコトバ」の応募が計1,239件(学校1,226件、一般13件)で、一般の応募が少なかった(前年度は学校1,518件、一般68件)。戦争体験を音声パネル等にする戦争体験アーカイブ事業を新規で実施した。	パネル展等の実施が多く、市民からの反応や効果を把握しにくい。	平和事業は年々拡大傾向にある一方、人員に限られることから、事業に係るコストや効果を検証し、効率的な実施を目指していく。「ふつうの日になったのか原爆の日」展は10年目となり、マンネリ化の課題がある。	A: 令和2年度より高い成果があった	<ul style="list-style-type: none"> くにたち平和推進週間パネル展(R4.6.21～7.3) 次世代に伝えたい戦争体験～朗読・座談会～(R4.6.25) 「ふつうの日になったのか 原爆の日」展(R4.8.2～8.16) 「市民と市で作る平和と人権」(エンターテイメントショー等)(R4.9.14)
(2)-29	〇様々なテーマや課題に対応した学習の支援	文化・芸術の視点を取り入れた人権・平和啓発事業	人権・平和施策をより広く発信していくため、平和コンサートや平和文学賞など、特に文化・芸術振興の視点を取り入れた人権・平和の意識啓発を図る。	市長室	<ul style="list-style-type: none"> 「ふつうの日になったのか原爆の日」展でのミニコンサート。 人権月間イベントでの、ムックリ(アイヌ民族楽器)演奏、合唱(オモニコラスグループ)、オイリュミー(舞踊表現)など。 	人権・平和について日頃考えることの少ない方にも、演奏等を通じて楽しみながら考えていただく機会を提供できた。	ムックリの演奏や歌を聞いて、アイヌ文化への理解を深めることで、差別をなくしていくことにつながるなどの感想があった。	演奏等を通じて、広く意識啓発を図りやすいが、文化・芸術振興の視点を取り入れられるかどうかは、企画内容によるところが大きい。	B: 令和2年度並みの成果であった	人権月間等で、演奏や演劇等を通して人権について考えられるような企画を検討。
(2)-30	〇様々なテーマや課題に対応した学習の支援	女性と男性及び多様な性の平等事業	女性と男性及び多様な性の平等参画を推進することを目的として、男女共同参画推進週間等に合わせてイベント(講演会、映画上映会、パネル展等)を行う。	市長室	<ul style="list-style-type: none"> ダブルリボンキャンペーン(DV・児童虐待防止、11月) 講座「いのちを守るということ～アウティングについて考える」(R4.1.22、26名) 座談会「みんなで話してみよう！生理のこと」(R4.3.11、11名) 医療者向けLGBTQ基礎講座(R4.3.12、10名)等 	くにたち男女平等参画ステーション・パラソルが主体となり、ジェンダー平等や多様な性に関する様々な視点での講座を開催した。	座談会「みんなで話してみよう！生理のこと」では、ユース世代を中心に安心して話せる場を用意したことで、生理のことについて熱心に話す方が多かった。	もともとつながりのある市民へ呼び掛けて参加者を募集することが多く、一般の参加が多くないことが課題。	A: 令和2年度より高い成果があった	くにたち男女平等ステーション・パラソルにて、新規企画として、年代や性別にかかわらず、ジェンダーやSOGIについて気軽に語り交流できる「ふらっとしゃべり場」を9月から月1回程度開催予定。
(2)-31	〇様々なテーマや課題に対応した学習の支援	防災出前講座	受講希望者が聞きたい内容に合わせて防災出前講座を実施。防災意識等の高まりから市民や団体等からの開催要望が多く、引き続き様々な機会を捉えて、周知をしていく。	防災安全課	11回の講座を開催(講師派遣を含む。)	昨年度に比較して講座(講師派遣を含む。)の開催回数も多く、市民への学習機会が増えた。	引き続き、市民や団体のニーズに沿った講座を開催していく。	感染防止のために、WEB会議を用いた出前講座を開催した。	A: 令和2年度より高い成果があった	出前講座については、引き続き感染症対策に留意して開催する。
(2)-32	〇様々なテーマや課題に対応した学習の支援	各種防災訓練等	各防災機関や市民等が、とるべき防災活動を実践及び防災対策について習熟し、防災機関が相互の連携体制を確立するため、各種訓練を実施していく。	防災安全課	応急給水訓練他7種の訓練を実施	新型コロナウイルス感染症対策を行いながら目的・内容に即した訓練を行うことができた。	今後も継続的に各種訓練を行い、災害に対応する職員等の習熟度を向上させるとともに市民の防災意識をさらに向上していく必要がある。	新型コロナウイルス感染症対策を行いながら訓練できたことは今後の感染症対策にとっても大きな収穫となった。	A: 令和2年度より高い成果があった	感染症対策に配慮したうえで、防災訓練を開催していく。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A: 令和2年度より高い成果があった B: 令和2年度並みの成果であった
 C: 令和2年度より低い成果であった D: 令和3年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和3年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和3年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和3年度の担当課評価	カ)令和4年度の実施方針
(2)-33	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	健康ウォーキングマップ普及事業	ウォーキングによる健康づくりを推進するため、市民のワーキンググループである「ウォーキングマップづくりの会」と市が協働で、市内の見所や健康情報を掲載した全9コースからなる健康ウォーキングマップを作成。このマップを活用し、市民の方々にウォーキングを楽しんでもらう。	健康増進課	新型コロナウイルス感染症流行のため、個人で行うことのできるウォーキングに人気があり、配布数が伸びた。12,420枚配布した。	新型コロナウイルス感染症流行中のため、マップを使用した事業計画がなく、今後については、検討が必要であった。	マップ愛好者などから好評であるが、全9コースのうち一部のコースに人気があり、配布数に偏りが生じている。	令和3年度は、マップ内容を見直して改訂版を作成。公園等に設置されている健康遊具について情報を追加した。	A: 令和2年度より高い成果があった	東京都の大腸がん啓発事業とコラボした、東京健康ウォークを11月13日に開催予定。
(2)-34	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	住宅地等安全緑化推進事業(ガーデン講習会)	緑の基本計画に基づく、市街地の緑化推進事業の一環として、緑化や園芸について学ぶ場を提供するとともに、防災や交通安全の視点も含んだ安全緑地の考え方を広く市民に浸透させ、民有地緑化を推進することを目的とする。	環境政策課	くにたち緑のサポーター養成塾において、緑化等について学ぶことのできるオンライン講座を開講し、71名が受講した。	これまで座学中心の講座となっていたため、受講者数に上限があったが、くにたち緑のサポーター養成塾を通じてオンラインで開講したことにより、例年よりも多くの方に受講していただくことができた。	受講者から大変好評をいただいた。特に、オンライン講座については、ステイホーム時の隙間時間に受講できることとして大変好評であった。	オンライン講座は大変好評であったが、講座の時間が長くなってしまったため、受講者の負担となってしまったものと考え。一方で、受講者に対して自宅周辺等の緑化推進を目的として、生垣新設等に係る助成金制度のPRを実施すると効果的であったと考える。	A: 令和2年度より高い成果があった	令和3年度に撮影した講座を引き続き公開するとともに、生垣助成制度のPRについて検討していく。
(2)-35	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	廃棄物処理施設見学会	市民から出される廃棄物処理の流れを理解してもらい、ごみの減量・資源化を推進するため、廃棄物処理施設の見学を行う。	ごみ減量課	施設見学会は公立小学校7校及び大学関係者1団体の実施があった	事業を継続したことにより、様々なテーマや課題に対応した学習の支援につながった。	参加者からは概ね好評だった。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で市民・団体の申し込みが少なく、ごみの認識を多くの人に伝えられなかった。	A: 令和2年度より高い成果があった	継続して実施しつつ、インターネット上でも学習できるよう動画の作成なども検討する。
(2)-36	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	家庭用生ごみ処理容器「ミニ・キエーロ」モニター講習会	家庭から出る生ごみを減量するため、「ミニ・キエーロ」の使い方等を説明するためのモニター講習会を行う。	ごみ減量課	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、モニター講習会の規模を縮小して3回行い、30名が参加した。	家庭から出る生ごみの減量と生ごみが消える実感を感じてもらえた。またと市民自ら試行錯誤して取り組むことで課題を認識し、それを解決する学習の支援につながった。	生ごみが減り、ごみを出す回数が減った。ごみに対する意識が変わったとの声があった。	規模は縮小しつつ、継続して実施していたが、関心がある市民には一定程度普及したと思われる。	B: 令和2年度並みの成果であった	継続して実施しつつ、「ミニ・キエーロ」の関心がない市民にも関心を持ってもらえるよう工夫する。
(2)-37	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	種まきから収穫までの農業体験事業	農業のノウハウを学びながら、種まき、草取、収穫を通して体験する。	南部地域まちづくり課	新型コロナウイルス感染症対策を徹底のうえ、計24回の体験を実施(全て土曜日)。参加延べ人数は549名であった。	収穫のみ行う1DAYイベントとは異なり、種まき、草取、収穫等、長期的な視座で農業に触れていただく機会を創出できた点は、参加者から大変好評を得たと考える。時間が経過する中で、講師(農業者)とだけではなく、参加者同士の交流も活性化され、市内農業や地場産野菜を支援する輪が広がる点にも期待できる。	各参加者は、自身が種まきや苗植えから携わり育てた野菜を収穫できる点について、非常にやりがいを感じていた。また、各参加者の学習意識は非常に高く、作業の合間に農業者から教授されるノウハウ等には、常に熱心に聞き入っていた。回を重ねる中で、参加者同士が顔見知りとなり、野菜作りをテーマにしたコミュニティが形成されていく点も、大きな楽しみとなっていた様に感じられる。	通年を通して、非常に満足度の高い事業を展開できたと考え。体験日以外の作業や準備には相当の時間・労力が割かれるため、職員の役割分担をはじめ、業務効率化に向けた仕組みを検討していきたい。	A: 令和2年度より高い成果があった	新型コロナウイルス感染症対策を行うことで、事業を実施する。
(2)-38	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	収穫と調理体験事業	講師を招き、市内農園で自ら収穫した野菜と一緒に調理する。	南部地域まちづくり課	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、飲食を伴う事業はすべて中止した。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、飲食を伴う事業はすべて中止したが、次年度は本事業を補完する事業を検討していく。	-	市の指針のとおり、飲食を伴う事業は難しいことから、動画配信等の対応で本事業を補完していく。	B: 令和2年度並みの成果であった	当面の間、飲食を伴う事業は中止とする。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A: 令和2年度より高い成果があった B: 令和2年度並みの成果であった
 C: 令和2年度より低い成果であった D: 令和3年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和3年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和3年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和3年度の担当課評価	カ)令和4年度の実施方針
(2)-39	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	お米農家の見学と田園散策	案内人の解説を受けながら、お米農家や用水など、南部地域の田園地帯を散策する。	南部地域まちづくり課	新型コロナウイルス感染症対策を徹底のうえ、実施。参加人数は13名であった。	その他の収穫系イベントとは異なり、他要素(環境政策的)と連携して実施できた点は、参加者にとっても新鮮な学習機会となった様に感じられる。	実際に水生生物を発見できた際は、参加者から驚きや喜びのリアクションがあった。さらに水環境との関係性(例:この生物が居るということは、水質が良い指標である)をレクチャーしていただく事で、環境学習にも発展した。	「農業(稲作)」と「水環境(水生生物)」という2つのテーマを扱うため、進行には工夫を凝らした。経路についても、より効果的なイベントとできるよう見直しを行い、一定の成果を得られた様に感じる。	A: 令和2年度より高い成果があった	新型コロナウイルス感染症対策を行うことで、事業を実施する。
(2)-40	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	地域に開かれた学校教育	現在の学校を知り、学んでもらうため、学校公開、道徳授業地区公開講座、セーフティ教室を実施する。	教育指導支援課	全市立小・中学校において、セーフティ教室を実施した。学校公開や道徳授業地区公開講座については、オンラインを活用することや、参観人数を制限して実施した。	実施したセーフティ教室は、全小・中学校で実施した。	オンラインを活用し、クラスの様子を公開したが、実際に学校に訪問して参観したいという声をいただいた。	感染者数を見ながら、適宜保護者に直接が学校にお越しいただく機会を設けられるよう、学校に働きかけていく。	A: 令和2年度より高い成果があった	感染者数を見極めながら、直接教育活動を保護者に参観していただく機会を設けられるよう、学校へ啓発をしていく。
(2)-41	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	人権、平和、憲法、環境、多文化共生などの事業	現代社会の課題を考えることを目的に、普遍的な課題や時事的な社会問題などの様々な学習機会を提供する。	公民館	平和(3回)、人権(6回)、近現代史(6回)、ジェンダー・セクシュアリティ(3回)、環境(1回)、多文化共生(1回)等現代社会の課題を考える講座を実施。	様々な切り口から、平和、人権、近現代史などを身近な課題として捉え考えるきっかけとなる学習機会を提供することができた。	平和講座では「世代を超えて戦争について深く考えられて良かった」、近現代史講座では「改めて歴史を振り返ることで現代の課題につながる視点を得ることができた」など講座の意義を感じる声が多く聞かれた。	小規模の会場や若い世代に向けた講座ではオンラインを併用、シニア世代の参加が多く見込まれる講座では広い会場で開催するなど工夫しながら実施した。	B: 令和2年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(2)-42	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	地域課題・教育機関連携事業	まちを知る、地域から学ぶこと、地域の高等教育機関との連携などを目的に事業を展開する。今後も社会教育施設として、目的に沿った多様な学習機会を提供する。	公民館	【実績】一橋大学連携講座(5回)、地域史講座(2回)、地域防災講座(1回)等、地域のサークルや大学等と連携して講座を開催した。	地域のサークルや大学と連携しながら、公民館だけではできないような学習機会を提供できた。	地域史講座では、「多摩地域の戦争の跡を訪ねる」というテーマで講師や地域のサークルの案内で旧日立航空機株式会社変電所まで歩き、「身近な地域での悲惨な戦争の跡について知ることができて、改めて平和の大切さを学ぶことができた」と大変好評だった。	地域防災講座は、オンライン受講と公民館受講併用で実施した。	B: 令和2年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(2)-43	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	社会・人文学習事業	社会を見つめ、文化をつくることを目的に事業を展開する。今後も社会教育施設として、目的に沿った多様な学習機会を提供する。	公民館	【実績】図書室のつどい(12回)、ブッククラブ(8回)、映画会(9回)、古典講座(5回)、哲学講座(5回)、文化芸術(6回)等を実施。	様々なジャンルの作品を取り扱うことで、現代社会の問題や文化について考える機会を提供できた。	図書室のつどいや映画会などは、どの回も申込開始後すぐに定員に達するほどの人気ぶりであり、参加者からは内容に感情移入しながら楽しく学べたという声が多く聞かれた。	図書室のつどいや映画会など以前は申込不要にしていた講座も昨年度に引き続きコロナ対策のため人数制限を設け事前申込制とした。映画会も途中休憩を入れて喚起を行うなどの感染対策を徹底した。	A: 令和2年度より高い成果があった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(2)-44	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	表現学習事業	表現と創作を楽しむことを目的に事業を展開する。今後も社会教育施設として、目的に沿った多様な学習機会を提供する。	公民館	身体表現ワークショップ(6回)、銅版画(4回)、介護短歌(2回)等を実施。	身体を動かす、絵を描く等様々な切り口から表現と創作を楽しむ機会を提供することができた。	「仲間ができたり今まで知らなかった自分を発見することができた」など表現を通じて様々な出会いや学びを得ている声が多数聞かれた。	身体表現では令和2年度に実施できなかったクリスマス会の発表を行うなど、対面での交流機会も持つことができた。	B: 令和2年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和2年度より高い成果があった B:令和2年度並みの成果であった
 C:令和2年度より低い成果であった D:令和3年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和3年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和3年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和3年度の担当課評価	カ)令和4年度の実施方針
(2)-45	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	公民館図書室・地域資料収集事業	読書活動振興および講座関連図書を知りやすくするため開室している。今後も図書室業務の機能充実および推進を図る。	公民館	【実績】 公民館主催講座に関連する書籍の受入、地域資料の継続的な収集・整理・保管を実施。	公民館で実施する市民が参加できる講座や催し物のテーマ・内容に関連した本を優先して収集・紹介し、市民の学びを深めることにつながっている。	講座に関する知識をより深めることができる、地域の活動の一端を知ることができ、などの声があった。	R2年度に引き続き、座席数を減らしたり、返却された本について一定期間空けてから書棚に戻すなど感染対策を行いながら開室した。	B:令和2年度並みの成果であった	引き続き公民館活動への“入り口”として、グループ活動・主催事業への関心の喚起や、市民が資料を通じて学びを深め、豊かな人間関係を育む援助となることを目指す
(2)-46	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	図書館企画事業	講演会や講座、行事等を企画し、市民、利用者が自ら学び、活動できる機会を提供する。	図書館	講演会等を46回開催した。	講演会等を行うことで、市民に対して学習等の機会を提供したことで、本重点施策の推進に貢献できた。	概ね良い評価を得ている。	令和2年度における講演会等の回数の50回と比較しても、令和3年度は令和2年度と同水準の成果だった。	B:令和2年度並みの成果であった	対面で行う必要がある講演会等があることを考えると、当面は以前のような頻度で行うことは難しいと考える。しかしながら、本重点施策目標に貢献するため
(2)-47	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	わくわく塾にたち	市の職員が市政の現状や課題、政策内容などの情報や職務で得たノウハウ等を地域グループ、サークル等主催の学習会に出向き、講座を行う。	生涯学習課	令和3年度は3件の利用があり、延べ36人が参加した。講座の新設:4件	さまざまな講座メニューを用意することで、市民が行政課題を身近に考えていただくきっかけとなっている。	座学ではない講座を実施してほしいとの声があった。	コロナ禍の影響もあり利用件数、利用者数は伸び悩んでいるが、講座の新設が4件あり、新しいテーマに更新できている。	B:令和2年度並みの成果であった	引き続き、市民を引き付けられるような講座メニューの新設等を検討する。
(2)-48	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	文化芸術推進事業	現在策定中の(仮称)文化芸術推進基本計画に沿って文化芸術施策を展開する。	生涯学習課	事業実施に向け、関係機関との打ち合わせを実施。パイロットイベントを3月に実施。	市民に向けた事業展開がわずかなため、計画の推進にほとんど貢献できなかった。	市民の参加を得ながら、双方向的に事業を進めていく必要がある。	計画策定後、コロナの影響もあり進みが鈍かったが、ここで事業内容が具体化してきた。	A:令和2年度より高い成果があった	行政課題にアプローチできる文化芸術事業に取り組んでいく。
(2)-49	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	くにたち原爆・戦争体験伝承者による講話活動	被爆体験や戦争体験を次世代へ伝えるため、市内の被爆者・戦争体験者の体験と平和への願いを語り継ぐ「くにたち原爆・戦争体験伝承者」による講話を市内公共施設や小中学校等で開催する。	市長室	公民館・駅前プラザでの定期講話を8回(1日に2回ずつ)、市外への派遣講話を23回、学校講話を市内小学校全8校で実施。	定期講話では新型コロナのため4回(2日)分が中止になった。学校講話は例年通り実施できている。派遣講話は一部が新型コロナのため中止となったが、概ね例年通り実施できている。	国立市で伝承者講話があることを知り、久しぶりに被爆体験を聞くことができよかった、という感想が、被爆地出身の方からあった。	派遣講話や学校講話では、1回の開催で多くの方に聞いていただけ。定期講話では夏時期には10名以上となる回もある一方、一般参加者が数名であることも多い。同一体験の伝承で、繰り返し参加するものではないため、市民の需要には限界がある。	B:令和2年度並みの成果であった	・定期講話を12回(1日に2回ずつ)。市内小学校全8校での学校講話。派遣講話は日野市の全公立小学校で実施。 ・広島・長崎の伝承者を、東京大空襲の伝承者としても活動できるよう育成するプロジェクトを実施。
(2)-50	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	「エコール辻東京」料理講習会	地産地消を目的とし、また、消費者啓発を図るため、身近な食材を用いた新しいレパートリーを学ぶ講習会を行う。	まちの振興課	新型コロナウイルス感染症の影響で実施せず	実施していないため評価できない。	エコール辻も当事業に協力的であり、当方としても、今後もエコール辻と協働し事業を進めていきたいと感じている。	エコール辻との貴重な協働機会であり、また、地産地消やエンカ消費を啓発する意味合いも含めたイベントでもあるため、開催できなかったことは残念であったと感じている。	D:令和3年度未実施であった	試食を実施せず座学のみ形式で実施の方向で考えている。
(2)-51	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	文化芸術講演会	市民の方々が文化芸術に対する関心を高めてもらうことを目的に、NHK事業部との共催で、美術館・博物館等で行われる企画展と関連する内容の講演会を行う。	生涯学習課	新型コロナウイルス感染症の影響で実施せず	実施できなかったため、計画の推進に貢献できなかった。	特になし。	未実施のため、なし。	D:令和3年度未実施であった	新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、実施を検討する。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A: 令和2年度より高い成果があった B: 令和2年度並みの成果であった
 C: 令和2年度より低い成果であった D: 令和3年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和3年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和3年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和3年度の担当課評価	カ)令和4年度の実施方針
(2)-52	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	消費者講演会	消費者団体と共催で、消費者啓発を行うための講演会を実施する。毎年トレンドに合わせてテーマを変えながら、消費者の啓発および自立を図るべく継続実施していく。	まちの振興課	令和4年2月18日に「持続可能な社会づくりに向けて、私たちができること～エンシカル消費(倫理的消費)～」をテーマに消費者団体連絡会との共催で講演会を実施。当講演会としては初めて、現地・オンライン併用型で実施した。	消費者団体連絡会と協力し、また、テーマも社会全体の課題として関心の高いものを設定することができ、一定の評価ができると考える。	参加者からの反応は概ね良好であった。オンラインでの参加も可能としたが、開催時期が新型コロナウイルス第6波のピークと重なり、例えば、子どもの保育園が休園となりオンラインとはいえども参加できる状況ではなかったといった声も聞かれた。	オンラインでは最大50名の参加を想定していたが結果は10名ほどと、十分な人数を集めることはできなかった。しかし、オンライン併用型としての開催実績を残せたことは良かったと感じている。今後は広報の面などを工夫し、より多くの方に参加いただけるようにしていきたい。	A: 令和2年度より高い成果があった	令和3年度と同様、消費者団体連絡会と共催で講演会を実施する方針である。テーマは未定。
(2)-53	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	大使館訪問スタディバスター	国際理解を深めるため、市内小・中・高校生を対象に、地域国際交流団体の支援を受け、大使館等の国際機関への訪問を実施する。	まちの振興課	令和4年3月29日に日本ユニセフ協会へのバスターを開催し、市内小・中・高校生15名が参加した。	3年ぶりに開催することができ、国際理解を深める機会を設けることができたと思う。	国際理解を深めることができたという参加者がほとんどであった。また、国際関係に関わらず、今までの生活を振り返る機会となったという声もあった。	新型コロナウイルスの影響がある中、バスの座席を調整したり、参加者への手指の消毒を徹底させる等、児童青少年課と協力・工夫し無事開催することができた。今後も参加者により良い機会を提供するため、訪問先とも連携し実施していきたい。	A: 令和2年度より高い成果があった	令和3年度と同様、児童青少年課と共催でバスターを実施する予定である。訪問場所は未定。
(2)-54	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	LINKくにたち	スポーツに対して親しみを持ってもらい、また、連帯感や達成感を共有し、市民同士の繋がりや強めることを趣旨として、大学通りでリレーマラソン等を実施する。	まちの振興課	新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止。	実施していないため評価できない。	例年参加している方からの開催を望む声もあった。	開催までの準備に約半年間かかることから、前年から準備を始めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大学通りの大規模イベントであるLINKくにたちは開催できなかった。	D: 令和3年度未実施であった	令和4年度は新型コロナウイルス感染対策を講じたうえで開催した。
(2)-55	○各種団体との連携・協働	花と緑のまちづくり事業	総体となる「花と緑のまちづくり協議会」及び主要テーマ毎の検討部会/プロジェクトを立ち上げ、市民委員が主体となり、各々が定期的なMTGや実活動(美化活動やイベント)を実施する。多様なメンバーが結びつきながら、花と緑を切り口に地域内で活躍する機会を提供することができる。	環境政策課	大学通り緑地帯及び市内公園への花植えを、市民ボランティア、公園協力会等の協力を得ながら、年二回実施した。 例年実施していたイベント(桜の接ぎ木体験2回、どんぐりイベント等。延べ約120人が参加。)についても、新型コロナウイルス感染予防を徹底しながら、実施した。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各種検討会でのMTGは実施せず、メールでのやり取りとなったが、大学通り緑地帯での定期的な維持管理作業や、年二回の花植え作業については、市民ボランティアと協働し、感染対策を徹底しながら実施した。	大学通り緑地帯や市内公園への花植えについては、道行く市民の方々より、好意的なご意見を多々いただいた。	各種イベントを徐々に再開することができた。また、感染対策を徹底しながら実施した大学通り緑地帯の維持管理作業については、道行く方々からの参加申し出をいくつも受け、ボランティア増員ともなった。	A: 令和2年度より高い成果があった	引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大勢が集まるようなイベント等の再開は慎重に検討するが、市民と協働した様々な取り組みを展開していきたいと考える。

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択
 A:令和2年度より高い成果があった B:令和2年度並みの成果であった
 C:令和2年度より低い成果であった D:令和3年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和3年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和3年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和3年度の担当課評価	カ)令和4年度の実施方針
(2)-56	○各種団体との連携・協働	くにたち緑のサポーター養成塾	一般公募による市民と市職員を対象に、緑を適切に保護・育成するための必要知識を学び共有する機会を提供する。講座は全6回で、テーマ毎に大学教授、研究職員、造園家、樹木医、庭園家、市職員が講演を実施。修了試験に合格した市民は「緑サポーター」として登録し、市内の緑の見守り隊や、花と緑のまちづくり事業等で活躍できるよう、フォローをする。	環境政策課	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、これまで座学形式としていた「くにたち緑のサポーター養成塾(ベーシックコース)」のオンライン配信を実施し、71名が受講した。また、過年度に「くにたち緑のサポーター養成塾(ベーシックコース)」を受講した方向けのスキルアップを目的とした「くにたち緑のサポーター養成塾(アドバンスコース)」を2回実施し、15名が受講した。	「ベーシックコース」については、オンライン講座としたことにより、多くの方に受講していただくことができた。「アドバンスコース」については、幅広い学習方法を屋外での実習形式としたことで、様々な学習方法を提供することができた。	受講者から大変好評をいただいた。特に、オンライン講座については、ステイホーム時の隙間時間に受講できるとして大変好評であった。	オンライン講座は大変好評であったが、講座の時間が長くなってしまったため、受講者の負担となってしまったものと考える。一方で、受講者の中から、大学通り等でのボランティア作業への参加者も増え、知識を有したボランティアの養成を実感できている。	A:令和2年度より高い成果があった	「ベーシックコース」については隔年開催となっていたが、令和3年度に撮影した講座については、引き続き公開していく。「アドバンスコース」については、同様の方法で開催予定。
(2)-57	○各種団体との連携・協働	他団体と図書館の連携事業	NHK学園の協力のもと、月2回程度、国立市民向けにNHK学園の図書館が開放され、図書や、雑誌、新聞、インターネットの閲覧等ができる。一橋大学サークルの協力により、中高生向け図書の展示や図書リサイクルを実施する。国立本店との協働により、推薦図書の展示や講座・講演会等を開催する。	図書館	・NHK学園との協力事業については、緊急事態宣言期間中等を除き、随時行っていた。 ・一橋大学サークルの協力による事業は、中高生向け図書の展示企画を1回行った。	企画等を他団体と行うことで市役所以外の価値観、視点を取り入れることができるため、市民の学習機会のさらなる充実を図ることができた。	特になし。	概ね適切に行えた。一方、新型コロナウイルスの影響等で国立本店との協働が行えなかった。	B:令和2年度並みの成果であった	今までどおり実施していきたい。また、令和4年度は、国立本店との協働を予定である。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和2年度より高い成果があった B:令和2年度並みの成果であった
 C:令和2年度より低い成果であった D:令和3年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和3年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和3年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和3年度の担当課評価	カ)令和4年度の実施方針
基本目標(3)学習の成果を活かせるサポートの充実										
(3)-1	○発表の場の充実	くにたち市民文化祭	市民の自主的な文化・芸術活動を支援するため、毎年1回文化祭を実施する。今後も文化・芸術活動の場の促進を図る。	公民館	【実績】参加団体14団体(新規1団体)参加者や来場者合わせて約2,000名程度。	令和2年度に比べて参加団体、参加者・来場者数は大きく増加した。近隣自治体で文化祭を中止する中で実施することで、市民の文化活動の機会を確保できた。	コロナ禍でいろいろな活動を制限せざるを得ない中、文化祭を開催できたのは意義あるものだった、感染対策をしっかりとながらも続けられよかった。各グループの発表も大いに意義のあるものだった、との声があった。	公民館や各催し物ごとのガイドラインを参考に、文化祭としてのガイドラインを作成するなど、実施に向けた環境を整え、参加団体の方々と試行錯誤しながらおこなった。	A:令和2年度より高い成果があった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(3)-2	○発表の場の充実	市民まつり・さくらフェスティバル・LINKくにたち	大学通りや谷保第三公園で行われるまつり・イベント。会場内では、様々な催し物が開催され、来場者が楽しむことができる。舞台等では踊り・歌等が披露されており、各団体にとって日頃の成果の発表の場となっている。	まちの振興課	さくらフェスティバルはオンラインで開催、市民まつりとLINKくにたちは新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止。	さくらフェスティバルのオンライン開催では、踊り等の発表の場を設けることができた。	例年参加している方からの開催を望む声もあった。	さくらフェスティバルのオンライン開催では、新型コロナウイルス感染症の影響により日ごろの成果の発表の場がなくなっているなか、踊り等の発表の場を設けることができた。	A:令和2年度より高い成果があった	さくらフェスティバルについて、新型コロナウイルス感染対策を講じたうえで雨天中止となった。LINKくにたちについて、新型コロナウイルス感染対策を講じたうえで開催した。市民まつりについて、新型コロナウイルス感染対策を講じたうえでの開催に向けて準備を進めていく方針。
(3)-3	○学習の成果を活かせる場の形成	くにたち原爆・戦争体験伝承者による講話活動	被爆体験や戦争体験を次世代へ伝えるため、市内の被爆者・戦争体験者の体験と平和への願いを語り継ぐ「くにたち原爆・戦争体験伝承者」による講話を市内公共施設や小中学校等で開催する。	市長室	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲
(3)-4	○学習の成果を活かせる場の形成	いきいき百歳体操の普及推進	高齢者の介護予防として筋力向上とコミュニティづくりを推進するため、おもりをを使った筋力運動である「いきいき百歳体操」の普及と効果測定を庁内保健師連携により図るとともに、自主的に行うグループを増やしていく。	健康増進課	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲
(3)-5	○学習の成果を活かせる場の形成	健康づくり推進員活動支援事業	意欲ある市民を健康づくり推進員として登録し、保健師等とともに市民の健康づくりを推進する。推進員には必要な病態、運動、栄養等の知識の習得と健康づくりの実践に努めていただき、地域住民等の自発的な健康づくり活動の展開につなげていく。また、オリジナル体操の普及を推進するため、健康づくり推進員が毎週定期的に公園で開催するほか、地域の団体への出張講習や高齢者事業等で普及を図る。	健康増進課	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和2年度より高い成果があった B:令和2年度並みの成果であった
 C:令和2年度より低い成果であった D:令和3年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和3年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和3年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和3年度の担当課評価	カ)令和4年度の実施方針
(3)-6	○学習の成果を活かせる場の形成	シニアカレッジ研修	高齢化が進む社会の中で、地域で高齢者サロンの開催や生活支援活動を担ってもらえる方、市内の訪問介護・通所介護事業所に従事していただける方を養成する講座を開催する。	高齢者支援課	25回行い、9名が受講、修了した。	地域での生活支援活動の担い手等を養成する講座を開催することで、学習の成果を活かせる場の形成につながっている。	高齢者に関する課題や自身の老後について考えさせられた。各分野に特化した講師から貴重な知識を得ることができた。	基本的な感染症対策をし、受講者の満足度が高い講座を開催することができた。受講者の地域での活動への参加については課題がある。	B:令和2年度並みの成果であった	令和3年度と同様に実施する。
(3)-7	○学習の成果を活かせる場の形成	花と緑のまちづくり事業	総体となる「花と緑のまちづくり協議会」及び主要テーマ毎の検討部会/プロジェクトを立ち上げ、市民委員が主体となり、各々が定期的なMTGや実活動(美化活動やイベント)を実施する。多様なメンバーが結びつきながら、花と緑を切り口に地域内で活躍する機会を提供することができる。	環境政策課	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲
(3)-8	○学習の成果を活かせる場の形成	くにたち緑のサポーター養成塾	一般公募による市民と市職員を対象に、緑を適切に保護・育成するための必要知識を学び共有する機会を提供する。講座は全6回で、テーマ毎に大学教授、研究職員、造園家、樹木医、庭園家、市職員が講演を実施。修了試験に合格した市民は「緑サポーター」として登録し、市内の緑の見守り隊や、花と緑のまちづくり事業等で活躍できるよう、フォローをする。	環境政策課	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲
(3)-9	○学習の成果を活かせる場の形成	多世代交流・市民サークル交流事業	子どもと大人の世代間交流、異種サークル交流、地域人材活用のため事業を実施する。今後も多様な交流や地域人材の活用を図る。	公民館	会場調整会をコロナ対策として、公民館利用者連絡会の協力を得て、規模を縮小しながらも月1回実施した。	公民館利用者連絡会の活動の場と、会場調整会に参加した団体同士の交流の場となった。	団体同士が実際に会って、調整をおこなうことで、30分程度の単位の調整もでき、団体同士の対話も生まれていい制度であるとの声がかかる。	例年、会場調整会には毎月申込団体すべて(100人程度)がホールに集まるが、コロナ対策として、蜜を避けるため、会場予約に重なるのあった団体のみ、1週間前に掲示(館内3か所及びホームページ)して、会場調整会に参加する方法に変更して実施した。	B:令和2年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底し、公民館利用者連絡会の協力を得ながら実施していく。
(3)-10	○学習の成果を活かせる場の形成	図書館ボランティア育成事業	図書館サービスを向上させ、市民参画を促すために、研修等によりボランティア(音訳・点訳ボランティア、くにたちお話の会、えほん読み聞かせボランティア等)の育成を図る。	図書館	ボランティア活動回数が479回だった。	ボランティア活動を通じて、市民が音訳等、読み聞かせ等の学習の成果を活かせるため、本重点施策の推進に貢献できた。	特になし。	令和2年度におけるボランティア活動回数の308回と比較すると、令和3年度は実績が著しく上がっている。これは、集計方法を変更し、書架整理ボランティアの活動回数を追加したことが原因である。仮に集計方法を変更しなかった場合、実績が338回のため、令和2年度と同水準の成果と言える。	B:令和2年度並みの成果であった	今までどおり実施していきたい。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A: 令和2年度より高い成果があった B: 令和2年度並みの成果であった
 C: 令和2年度より低い成果であった D: 令和3年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和3年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和3年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和3年度の担当課評価	カ)令和4年度の実施方針
基本目標(4)施設や場の拡充、職員の専門性の確保										
(4)-1	○施設や場の拡充・市民ニーズに合った施設運営	公民館会場・備品等の貸出事業	市民の自主的な社会教育活動を支援するため実施する。今後も社会教育施設として市民の自主的な学習活動の支援を図る。	公民館	【実績】サークル利用が年間4,237回。備品は、印刷機506回、液晶モニター108回、プロジェクター109回、マイクセット160回等貸出しを行った。	市民サークルの活動に役立っている。	新型コロナウイルス感染症対策の影響で活動場所が少なくなっている中、サークル活動をする上で貴重な施設として感謝の声が多く聞かれる。	年度中で何度か緊急事態宣言があったが閉館を継続した。11月末までは各会場の定員数を減らすなどの感染対策を行った。引き続き、利用者に感染対策のご協力いただきながら開館している。	A: 令和2年度より高い成果があった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するよう研修を実施する。	職員課	目的・内容を満たす研修として、東京都市町村職員研修所の実務研修に図書館料があり、令和2年度に1名派遣した。この研修は、偶数年の実施となっており、令和3年度は実施がなかった。	未実施のため、なし	未実施のため、なし	目的・内容をピンポイントに満たすことのできるような研修を市で実施しようとする場合、費用対効果や講師の選定といった面で難しく、市独自に研修を実施するのはあまり効果的ではないと考える。今後は、外部で行われている研修等への参加を検討したい。	D: 令和3年度未実施であった	令和4年度は東京都市町村職員研修所の実務研修に図書館料が実施される予定であり、職員の派遣を予定している。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するよう研修を実施する。	生涯学習課	具体的な研修は未実施である。なお、社会教育委員の会から、「職員の専門性の確保に関する事業」について、令和2年9月に意見書を提出いただいた。	生涯学習・社会教育に関する職員の専門性の確保に資する意見書を提出いただいている。	特になし。	社会教育委員の会から意見書が提出されたが、令和3年度も具体的な研修内容の検討はほとんどできなかった。	D: 令和3年度未実施であった	社会教育委員の会から提出された意見書を受け、職員の専門性の確保に資する研修を実施していく。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するよう研修を実施する。	公民館	【実績】前年度に引き続き、東京都公民館連絡協議会に加盟し、年30回程度の部会へ参加した。令和3年度は、企画委員、役員部会委員、職員部会長として例年2月ごろに開催される東京都公民館研究大会の企画に携わった。	他市との貴重な情報交換の場となった。	コロナ対策のため東京都公民館研究大会は、動画配信となった。田中雅さんによる「地域課題解決学習をつくる」の基調講演等の視聴をとおり、地域住民の学習活動を支援するうえで必要な知識を得る機会が得られたという声をいただいた。	新型コロナウイルス感染症対策のため、部会の一部をオンライン併用としたり、研究大会を動画配信による実施にするなどの工夫をした。	B: 令和2年度並みの成果であった	令和4年度は、委員部会副部会長市となる。新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら実施していく。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するよう研修を実施する。	図書館	能力育成、情報交換等の研修に累計43人が参加した。	能力育成、情報交換の研修を通じ、本重点施策の推進に貢献できた。	特になし。	令和2年度における能力育成、情報交換等の研修の参加数の5人(累計)と比較すると、令和3年度は実績が著しく上がっている。これは、多くのボランティアの方が参加した研修があることが原因である。仮にボランティアの人数を差し引いた場合、研修参加人数は10人になるため、例年と同水準の成果と言える。	B: 令和2年度並みの成果であった	新型コロナウイルスに対応した研修方法もある程度確立されてきたことから、今後は研修参加回数がある程度改善すると考えられる。

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択
 A:令和2年度より高い成果があった B:令和2年度並みの成果であった
 C:令和2年度より低い成果であった D:令和3年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和3年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和3年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和3年度の担当課評価	カ)令和4年度の実施方針
基本目標(5)適切な事業評価方法の検討										
(5)-1	○生涯学習や社会教育の役割や効果を表すことのできる評価方法の検討	事業評価方法の検討	生涯学習振興・推進計画の中間評価、終了時の評価をするにあたり、定量評価と定性評価の両面からの評価をするため、評価方法の開発について検討します。	生涯学習課	事業評価方法について、社会教育委員の会から、意見書が令和3年4月に提出された。	意見書を提出いただいたことで、具体的な評価方法をイメージすることができた。	事業評価については、行政による自己評価だけで十分との声がある。	社会教育委員の会から意見書が提出されたが、令和3年度は関係部署での情報共有にとどまり、具体的な評価内容の検討はほとんどできなかった。	D:令和3年度未実施であった	意見書の内容を基に中間評価を実施する。